

平成28年8月2日

## 「南海トラフ巨大地震に備える！！」パネル展

～昭和南海地震から70年、震災の教訓と高速道路等が果たす役割～

東日本大震災発生から5年、昭和南海地震発生から70年経過しました。また、本年4月には熊本地震も発生している中、近い将来に発生するとされている南海トラフの巨大地震への懸念が高まっています。

徳島県内では現在、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道等の整備を進めているとともに、震災の教訓を踏まえ、高速道路区域への津波避難場所設置に向けた取り組みも行っております。

徳島河川国道事務所では、徳島県及び徳島県内沿岸市町と協力して、こうした取り組みを紹介し、震災の記録や教訓を次世代へと伝えていくため、「『南海トラフ巨大地震に備える！！』パネル展」を以下の日程にて行います。

## ■開催場所及び開催期間

開催場所	開催期間	備考
松茂町保健相談センター(1階)	H28. 8. 9(火)～8. 21(日)	
藍住町役場(1階町民ホール)	H28. 8. 23(火)～8. 26(金)	
徳島市役所(1階国際親善コーナー)	H28. 8. 30(火)～9. 5(月)	
鳴門市役所(1階ロビー)	H28. 9. 7(水)～9. 16(金)	
小松島市ミリカホール(1階ロビー)	H28. 9. 21(水)～10. 2(日)	土日祝除く
北島町役場(1階ロビー)	H28. 10. 4(火)～10. 14(金)	土日祝除く
阿南市役所(1階ロビー)	H28. 10. 18(火)～10. 28(金)	土日祝除く
美波町役場(1階ロビー)	H28. 11. 1(火)～11. 10(木)	土日祝除く
阿波海南文化村 海南文化館	H28. 11. 12(土)～11. 15(火)	
牟岐町海の総合文化センター(1階ロビー)	H28. 11. 17(木)～11. 29(火)	
四電エネルギープラザ阿南	H28. 12. 6(火)～12. 8(木)	

## ■展示物(別紙参照)

- ①東日本大震災、南海トラフ巨大地震、高速道路等の役割を紹介するパネル
- ②熊本地震におけるTEC-FORCEおよびTEC-徳島の活動状況を紹介するパネル
- ③東日本大震災の津波により被災した道路附属物等

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所、徳島県、徳島市、鳴門市、

小松島市、阿南市、牟岐町、美波町、海陽町、松茂町、北島町、藍住町

\* 本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト「No.1南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト」の取組みに関連します。

## 【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

副所長(道路) 榎田 幸伸(ひのきだ ゆきのぶ) TEL: 088-654-2211

○ 道路調査第一課長 鈴木 大健(すずき だいけん) TEL: 088-654-9612

徳島県 県土整備部

高規格道路課長 鎌田 泰弘(かまだ やすひろ) TEL: 088-621-2678

○主な問い合わせ先

展示物

①東日本大震災、南海トラフ巨大地震、高速道路等の役割を紹介するパネル（例）

■南海トラフ地震

きよ たい じ しん つ なみ

# 巨大な地震・津波

巨大な地震・津波が発生。さらに通行不可能となる道路が多数発生し、生活に大きな影響を与えることが想定されます。

●地震震度分布

●津波の最大値と1mの津波到達時間

●道路の閉塞率

建物倒壊や津波浸水等により、幅員の狭い道路を中心に道路が閉塞し、通行支障が発生する割合

国土交通省 四国地方整備局

■防災・減災の取組

## 「四国8の字ネットワーク」津波から高台へ逃げる

避難用階段・避難路の設置

津波が押し寄せる地域の高台の道路には、避難用階段や避難路の設置を進めています。これにより、地域の方々が一層安全な場所に避難することができます。

愛媛県宇和島市坂下津地区 宇和島道路

避難場所

避難用スロープ

非常用進入扉

緊急時には足りでも使える避難階段を設置

国土交通省 四国地方整備局

## 高速道路区域への津波避難場所設置に向けた取り組み 【徳島県】

沿岸部の市町には、「津波避難困難地域」が多数存在

本県では、東日本大震災以前より、高速道路のり面が津波避難場所として有効であると着目し、機会ある毎に政策提言を実施

H23.5 【政策提言】  
「津波避難場所を占用許可施設」として道路法施行令に明記すること

H23.8 提言を具現化する独自の取り組み

H25.4 道路法施行令の改正が実現

H26.2 この取り組みをさらに加速

効果

- 住民の安全・安心
- 津波避難困難地域の解消
- 津波避難場所設置に伴う費用負担軽減

約4,100人の津波避難場所を確保

「助かる命を助ける」という理念

◆道路が持つ付加価値

◆道路はつながってこそ効果を発揮

地域防災力の向上!

本線の整備促進を!!

徳島自動車道（鳴門JCT～徳島IC）

平成27年3月14日開通

浸水深(m)

- 10.0～
- 5.0～10.0
- 4.0～5.0
- 3.0～4.0
- 2.0～3.0
- 1.0～2.0
- 0.3～1.0
- 0.01～0.3

富吉地区 600人収容

米津地区 800人収容

中村地区 350人収容

太郎八須地区 900人収容

松茂PA背後地 630人

長岸地区 210人収容

大幸地区 450人収容

段岡地区 200人収容

徳島県津波浸水想定(H24.10.01)

青字：道路法第24条・承認工事  
赤字：道路法第32条・占用許可  
黒字：一時使用協定（会社施設の運用）

吉野川



## ②熊本地震における TEC-FORCE および TEC-徳島の活動状況を紹介するパネル（例）

### TEC-FORCE パネル

土砂災害の早期復旧へ

国土交通省 四国地方整備局

## 被災状況を調査 支えに！



菊池市内山林被災状況調査  
2016.5.4撮影

4月16日より5月6日までの期間、TEC-FORCE(テックフォース)砂防班として合計32名の職員を現地に派遣、被害の拡大防止に向け、熊本県阿蘇郡南阿蘇村、西原村、菊池市等において、溪流・急傾斜地等での地滑り、河道、崩落箇所の被害状況調査を実施しました。



法面崩壊発生箇所の調査(南阿蘇村)



崩落箇所の測定状況(菊池市)

被災地の早期復旧へ

国土交通省 四国地方整備局

## 災害対策機械を派遣 支えに！



大規模崩落箇所での土砂撤去作業状況  
2016.4.26撮影

4月15日より、被災地への支援として、災害対策用のヘリコプター「愛らんど号」、遠隔操縦式バックホウ2台、衛星通信車1台を現地に派遣、早期応急復旧に向け、熊本県、阿蘇郡南阿蘇村等において、上空からの被災状況調査、大規模道路崩壊箇所等の土砂撤去、災害対策本部との通信支援を実施しました。



高松空港より現地向け飛び立つ「愛らんど号」



南阿蘇村にて通信支援を行う「衛星通信車」

### TEC-徳島パネル

#### TEC-徳島(徳島県緊急災害対策派遣チーム)の活動

##### ◎TEC-徳島「熊本地震支援」の経緯

熊本地震は最大震度7の2回の地震により、宅地や家屋に大きな被害が発生した。  
徳島県は熊本県からの要請を受けて、TEC-徳島から、「建築物判定班」と「宅地判定班」を熊本県に派遣しました。

##### ◎派遣状況

- ・建築物判定班(被災建築物応急危険度判定士)  
派遣期間 平成28年4月19日(火)～5月2日(月)  
派遣人数 計12名 のべ60人・日派遣
- ・宅地判定班(被災宅地危険度判定士)  
派遣期間 平成28年4月22日(金)～5月23日(月)  
派遣人数 計30名 のべ147人・日派遣

##### ◎活動状況



宅地判定班



建築物判定班



TEC-徳島 徳島(5月23日)

##### ◎TEC-徳島とは

県内や他の都道府県で発生した地震や風水害などの大災害発生時において、被災した市町村や他の都道府県等から「専門的な知識を必要とする職員の支援」を要請された場合、「県の技術職員」を「緊急的」に被災地に派遣して、技術的な支援を行うためのチームです。  
要請があれば、速やかに職員を派遣できるよう、各専門分野ごとにあらかじめ職員を登録しています。

#### TEC-徳島(徳島県緊急災害対策派遣チーム)の活動

##### 被災宅地危険度判定とは…

災害対策本部が設置されるような、大規模な地震または大雨等によって、宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合、要請を受けた被災宅地危険度判定士が危険度判定を実施し、被害の発生状況を迅速かつ的確に把握することにより、宅地の二次災害を軽減・防止し**住民の安全を確保**することを目的としています。

##### ◎判定の概要



被災宅地危険度判定の結果は、「赤、黄、青」の判定ステッカーを見やすい場所に表示し、当該宅地の使用者・居住者だけでなく、宅地の付近を通行する歩行者にも安全であるか否かを識別できるようにします。  
判定ステッカーには、判定結果に基づく対処方法についての簡単な説明、二次災害防止のための注意、判定結果についての問い合わせ先も記入します。

##### ※簡易判定とは…

熊本地震における被災宅地危険度判定は、膨大な数の被災宅地を調査しなければならないため、短期間で調査を完了することは困難です。そのため、危険度の高い箇所を重点的に行うことを目的に「赤、黄、青」のほか、「簡易黄」、「簡易青」の簡易調査を取り入れた判定が実施されています。

③東日本大震災の津波により被災した道路附属物等（例）



補助標識「通学路」



小学校の時計



小型標識「距離標」



視線誘導標